

環東アジア地域のネットワークに関する 総合的研究

研究代表者 芳 井 研 一

1. 代表者名

芳 井 研 一

2. 分担者名

関 尾 史 郎

萩 美津夫

高 橋 秀 樹

中 林 隆 之

山 内 民 博

永 木 敦 子

錦 仁

橋 本 博 文

広 川 佐 保

堀 健 彦

3. 協力者名・所属

麓 慎 一・教育学部

白 石 典 之・超域研究機構

佐 藤 貴 保・超域研究機構

内 田 宏 美・環東アジア研究センター

岩 本 篤 志・現社研

4. 2010年度の研究活動の概要

(1) 2010年度に本プロジェクトが、主催・共催した学術企画は、以下の通りである。

① 国際ワークショップ「日中戦争の深層」

(2010年11月13～14日, 新潟大学五十嵐キャンパス, 総合教育研究棟D301教室)

11月13日(土) セッション1 〈日中戦争期の軍事輸送〉

児嶋俊郎(長岡大学経済経営学部)「日中戦争期の軍事鉄道輸送に関する防衛省所蔵資料について」

大宮 誠(新潟大学大学院現代社会文化研究科生)「日中戦争期の日本海航路における軍事輸送」

芳井研一(新潟大学人文社会・教育科学系)「関特演の実像」

セッション2 〈日中戦争期の「満州国」〉

ロマーノヴァ=ヴィクトリア(ロシア国立極東人文大学)「ハルビンのユダヤ人協会と日本の占領政権との関係について」

塚瀬 進(長野大学環境ツーリズム学部)「日中戦争を契機とする満州国の政策変化」

陳 祥(新潟大学大学院現代社会文化研究科生)「日中戦争による「満州国」農業支配の変化」

殷志強(同上)「日中戦争期における奉天市民生活の実態」

レセプション

11月14日(日) セッション3 〈日中戦争期の経済構造〉

安鍾哲(韓国仁荷大学校韓国学研究所)「日中・太平洋戦争及び戦後期朝鮮における欧米人財産の管理と動向」

白木沢旭児(北海道大学大学院文学研究科)「日中戦争の経済的特質」

宋芳芳(中国北京大学歴史学系 PD)「日中戦争期の物流構造の転変」

セッション4 〈日中戦争の深層構造〉

臧運祐(中国北京大学歴史学系)「「近衛三原則」の創出と日汪関係の確立」

笠原十九司（都留文科大学名誉教授）「日本軍の治安戦と三光作戦」
石島紀之（フェリス女学院大学名誉教授）「戦時期中国における戦争動員と民衆」
小林元裕（新潟国際情報大学情報文化学部）「華北分離工作期北京の日本居留民」
シンポジウム〈日中戦争の深層〉
各報告については、『環日本海研究年報』第18号，および『環東アジア研究センター年報』に分載。

② 国際ワークショップ「磚画・壁画の環東アジア」

（2011年3月5日，新潟大学五十嵐キャンパス，総合教育研究棟1階大会議室）

關尾史郎「趣旨説明」

佐々木正治（愛媛大学法文学部）「四川農業画像磚から見る漢代墓葬画像の発展と系譜」

三崎良章（早稲田大学本庄高等学院）「甘肅の磚画と遼寧の壁画」

高橋秀樹（新潟大学人文社会・教育科学系）「中国古代墓壁画に見られる西方系要素について」

内田宏美（新潟大学学系附置環東アジア研究センター）「画像資料に見る魏晉時代の武器」

萩美津夫（新潟大学人文社会・教育科学系）「河西地域の磚画・壁画にみられる魏晉南北朝時代の楽器」

徐永大（韓国仁荷大学校韓国学研究所）「高句麗壁画に見える遼寧壁画の影響」

各報告・講演については，別途論集を企画中である。

タイトルからも明らかなように，①は近現代史中心で，学内（大学院生を含む）・国内の他，韓国・仁荷大学校韓国学研究所，中国・北京大学歴史学系，およびロシア・極東国立人文大学などから研究者を招聘して，

日中戦争を新たな角度から再検討したものである。また②は前近代史とくに古代史中心で、学内（学系附置センターを含む）・国内（愛媛大学法文学部を含む）の他、韓国・仁荷大学校韓国学研究所から研究者を招聘して、東アジア周縁地域における画像磚墓・壁画墓の分布と内容を探ったものである。①では、芳井研一が、②では、關尾史郎がそれぞれ主導的な役割を果たした。なお両ワークショップともに、新潟大学コア・ステーション学系附置環東アジア研究センターや科研費プロジェクトなどとの共催により行われた。

このほか、毎年度、愛媛大学資料学研究会と共催で公開シンポジウムを松山で開催しているが、22年度は愛媛大学が単独で2010年10月9～10日に主催した「東アジアの出土資料と情報伝達」に關尾が出席した。また本プロジェクトによる研究成果の一端を、「魏晋画像磚の世界—「共生」と「地域」を考える—」と題して、愛媛大学法文学部人文学科主催学術交流講演会（2010年7月19日、愛媛大学法文学部）で講じた（招待講演）。

本プロジェクトは学系附置の環東アジア研究センターの研究活動を実質化するための活動体でもある。本プロジェクト自体は22年度で満了となるが、3年間の活動を継承しつつ、さらには来年度以降も活動は継続予定である。

(2) 研究成果の公表

① 『資料学研究』第8号（2011年3月刊行，1349-1253）

原 直史「地主史料からみた近世蒲原平野の米穀流通」

矢田俊文・ト部厚志「1751年越後高田地震による被害分布と震源域の再検討」

山内民博「朝鮮新式戸籍関連資料の基礎的検討—忠清南道泰安郡新式戸籍関連資料—」（1）

高橋秀樹「アガメムノンの夢—『イリアス』第2書に見る政治文化—」

② 『環日本海研究年報』第18号（2011年3月刊行，1347-8818）

- 郡山達也・櫛谷圭司「中国北京の親子近居家族の住まい方に関する研究」
内田宏美「古代北東アジアの複合弓について—骨角製弓弭出土一覧—」
芳井研一「国際情勢の変転をめぐる満鉄調査部の現状分析」
- ③ 『環東アジア研究センター年報』第6号（2011年3月刊行，1880-9898）
芳井研一「関特演の実像」
ロマーノヴァ・ヴィクトリア／麓 慎一（訳）「ハルビンのユダヤ人協会
と日本の占領政権との関係について（1931年から1945年）」
- ④ 『西北出土文献研究』2010年度特刊（2011年4月刊行，1349-0338）
内田宏美「甘肅高台县許三湾墓葬群出土“塢堡”形木製品について」
萩美津夫「河西地域の磚画・壁画にみられる魏晋南北朝時代の楽器—凶
像資料と文献から音楽の種目を考える—」
關尾史郎「高台研究の成果と意義—“高台学”の推進に向けて—」
- ⑤ 『西北出土文献研究』第9号（2011年5月刊行予定，1349-0338）
關尾史郎「敦煌新出鎮墓瓶初探—「中国西北地域出土鎮墓文集成（稿）」
補遺（続）—」
- ⑥ 關尾史郎『もうひとつの敦煌—鎮墓瓶と画像磚の世界—』（高志書院・
新大人文選書7，2011年3月，4-86215-092-9）
- ⑦ 芳井研一（解説）『南滿州鉄道株式会社 帝国議会説明資料・別冊』（不
二出版・十五年戦争極秘資料集・補巻36，2010年3月，4-8350-6267-9）